

ワークフローの実行

この章は、次の項で構成されています。

- ワークフローの実行。1 ページ
- ワークフローの実行, 2 ページ
- 例:ワークフローの実行、3ページ
- ワークフロートリガーの作成, 4 ページ
- 例: ワークフローを実行するトリガーの作成、7 ページ
- サービス リクエストのスケジュール設定, 11 ページ
- 例:ワークフロー実行のスケジュール設定. 12 ページ
- VM アクション ポリシーの使用、13 ページ

ワークフローの実行

ワークフローを実行すると、サービスリクエストが作成されます。ワークフローは直接実行することも、後で実行されるようにスケジュールすることもできます。あるいは、特定の条件を満たした時点でワークフローを実行するためのトリガーを作成することもできます。また、VMでワークフローを実行する際のポリシーを作成できます。

以下に、これらのオプションのそれぞれについて簡単に説明します。

- ワークフローを直接実行する:選択したワークフローを直ちに実行できます。[ポリシー (Policies)]>[オーケストレーション (Orchestration)]>[ワークフロー (Workflows)]タブ に移動するか、[ワークフローデザイナ (Workflow Designer)]を開き、[今すぐ実行 (Execute Now)]を選択します。
- 後で実行されるようにサービスリクエストをスケジュールする:選択したワークフローの実行をスケジュールできます。[ポリシー (Policies)]>[オーケストレーション (Orchestration)]>[ワークフロー (Workflows)]タブに移動して、[スケジュール (Schedule)]を選択します。

- 条件付きワークフローの実行をトリガーする:一連の条件を満たす場合にワークフローを実行するトリガーを作成できます。[ポリシー (Policies)]>[オーケストレーション (Orchestration)]>[ワークフロー (Workflows)]タブに移動して、[トリガー (Triggers)]を選択します。
- アクションポリシーを作成する:仮想データセンター(vDC)内の VM でワークフローを実行するためのポリシーを作成できます。[ポリシー(Policies)] > [オーケストレーション(Orchestration)] > [ワークフロー(Workflows)] タブに移動して [ユーザの VM アクションポリシー(User VM Action Policy)] を選択し、ポリシーを vDC に追加します。

以降のセクションで、詳しい手順と例を記載します。

ワークフローの実行

[ワークフロー (Workflows)]ページまたは[ワークフローデザイナ (Workflow Designer)]から、ワークフローを直ちに実行することができます。

- ステップ1 [ワークフロー (Workflows)] ページに移動します。メニューから [ポリシー (Policies)] > [オーケストレーション (Orchestration)] を選択し、続いて [ワークフロー (Workflows)] タブの順に選択します。
- ステップ2 [ワークフロー (Workflows)]ページで、実行するワークフローに移動して選択します(ワークフローはディレクトリ内またはサブディレクトリ内にあります)。 必要に応じて、[ワークフロー デザイナ (Workflow Designer)] アクションをクリックし、[ワークフローデザイナ (Workflow Designer)] でワークフローを開きます。
- ステップ3 [ワークフローの実行(Execute Workflow)] アクションをクリックします。
 - [ワークフロー デザイナ (Workflow Designer)] を使用している場合、このボタンはウィンドウの右上隅の近くにあります。
 - [ワークフロー (Workflows)] ページを使用している場合は、タスク バーの右側にあるドロップダウン メニューからこのアクションを選択します。
- ステップ4 [実行するワークフロー(Executing Workflow)]ダイアログボックスで、実行するワークフローのバージョンを選択します。
- ステップ5 同じく [実行するワークフロー (Executing Workflow)] ダイアログボックスで、ワークフローのユーザ入力を設定します。 入力コントロールに、ユーザとして変更することが許可されているワークフローの入力が表示されます。

入力が必須であり、デフォルトの入力値がない場合は、ユーザが値を入力する必要があります。

- (注) ワークフローの入力は、実行時にオーバーライドできない値(管理入力)が定義されている場合もあります。管理入力は、[実行するワークフロー(Executing Workflow)] ダイアログボックスに表示されません。
- ステップ6 [送信(Submit)]をクリックします。

[サービス リクエストの送信ステータス(Service Request Submit Status)] ダイアログボックスが表示されます。

次の作業

[サービス リクエストの送信ステータス(Service Request Submit Status)] ウィンドウの [詳細ステータスの表示(Show Detail Status)] をクリックすると、サービス リクエストの進捗状況を確認できます。

例:ワークフローの実行

この例では、ワークフローを直接実行する方法を説明します。

はじめる前に

例:ワークフローの作成の説明に従ってサンプルワークフローを作成します。

- ステップ1 [ポリシー (Policies)]>[オーケストレーション (Orchestration)]に移動します。
- ステップ2 [ワークフロー (Workflows)] タブをクリックします。
- **ステップ3** 例: ワークフローの作成で作成した PowerCycleVM ワークフローを探して選択します。
- ステップ**4** [ワークフローの実行(Executing Workflow)] ダイアログボックスで、[送信(Submit)] をクリックします。
- ステップ**5** [サービス リクエストの送信ステータス(Service Request Submit Status)] ウィンドウで、[詳細ステータス の表示(Show Detail Status)] をクリックします。
- ステップ**6** [サービス リクエスト (Service Request)] ダイアログボックスで、[ワークフロー ステータス (Workflow Status)] タブをクリックします。 ステータス ページに、サービス リクエストの進行状況を示すグラフが表示されます。
- ステップ7 サービス リクエストのログを表示するには、[ログ (Log)] タブをクリックします。
 - (注) [更新(Refresh)] ボタンをクリックして、ログに対する最新の更新を表示します。

次の作業

[ワークフロー ステータス (Workflow Status)] タブをクリックして、[リクエスト ID (Request ID)] に示されている値を記録します。この ID によって、サービス リクエストのステータスをいっても確認できます。サービス リクエストの表示を参照してください。

[閉じる(Close)] をクリックして、[サービス リクエスト(Service Request)] ダイアログボックスを閉じます。

ワークフロー トリガーの作成

特定の条件が満たされた時点でワークフローを実行するためのトリガーを定義できます。条件には、一般にさまざまなシステムコンポーネントの状態が使用されます。トリガーを有効にすると、UCS Director はシステム状態をモニタし、トリガーの条件が満たされた時点でユーザ指定のワークフローを実行します。

ワークフロートリガーを作成するには、次の手順を実行します。

- ステップ1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)]>[オーケストレーション (Orchestration)]を選択します。
- ステップ2 [トリガー (Triggers)]タブを選択します。
- ステップ3 [追加(Add)]をクリックします。
- ステップ4 [トリガーの追加 (Add Trigger)]の[トリガー情報 (Trigger Information)]画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[トリガー名(Trigger Name)] フィールド	トリガーの名前。
[有効(Is Enabled)] チェックボックス	トリガーを有効にします。 (トリガーを作成して保存し、後で有効にすることもできます)。
[説明 (Description)]フィールド	トリガーの説明。
[頻度(Frequency)] ドロップダウン リスト	トリガールールのチェック間隔。この時間間隔は、 3分から1か月までの範囲で選択できます。

名前	説明
[トリガー タイプ(Trigger Type)] ドロップダウンリスト	トリガータイプを選択します。 • [ステートフル(Stateful)]:最後のトリガー状態が記録され、トリガーの状態が変わるとアクションが実行されます(トリガー状態は、トリガー条件が満たされると [アクティブ(Active)]になります。それ以外の場合は[クリア(Clear)]です)。両方のトリガー状態の遷移に対してワークフローを選択します。つまり、トリガー状態が [アクティブ(Active)]から [クリア(Clear)]に変わった場合のワークフローと、[クリア(Clear)]から [アクティブ(Active)]に変わった場合のワークフローを選択します。トリガー状態は、[頻度(Frequency)] ドロップダウン リストで指定された頻度でチェックされます。 • [ステートレス(Stateless)]: [頻度(Frequency)] ドロップダウン リストで指定された頻度でトリガーがチェックされ、その条件が満たされると常にトリガーが実行されます。

ステップ5 [次へ (Next)]をクリックします。

ステップ6 トリガー条件を指定します。

- a) [トリガーの追加 (Add Trigger)]の[条件の指定 (Specify Conditions)]画面で、次の操作を実行します。
 - [(+)]をクリックして、条件リストに条件を作成します。
- b) [モニタするエントリの追加(Add Entry to Monitor)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[モニタ対象のオブジェクトのタイプ(Type of Object to Monitor)] ドロップダウン リスト	この条件でモニタするオブジェクトのタイプ。
[オブジェクト (Object)] ドロップダウン リスト	モニタする特定のオブジェクトを選択します。このリストのエントリは、オブジェクトのタイプによって異なります。オブジェクトをフィルタリングするために、追加情報(ポッドなど)を指定しなければならない場合もあります。

名前	説明
[パラメータ (Parameter)]ドロップダウンリスト	モニタする動作パラメータを選択します。このリストのエントリはオブジェクトによって異なります。
[操作(Operation)] ドロップダウン リスト	トリガーの比較のリレーショナル操作を選択します。このリストのエントリは、有効なパラメータの状態によって異なります。
[値(Value)] ドロップダウン リスト	パラメータの比較に使用する値を選択します。[パラメータ (Parameter)]、[操作 (Operation)]、[値 (Value)]で定義された関係に該当する場合、トリガー状態は[アクティブ (Active)]になります。それ以外の場合は、[クリア (Clear)]です。

- c) [送信 (Submit)]をクリックします。
- d) トリガーの条件を追加するには、上記の2つのステップを繰り返します。
- e) [トリガーの適用条件(Trigger When)] ドロップダウンリストで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - •[すべての条件を満たす (All Condition(s) Satisfied)]:トリガー条件のすべてを満たす場合にのみ、トリガー状態が適用されるようにするには、このオプションを選択します。
 - [いずれかの条件を満たす (Any Condition(s) Satisfied)]:トリガー条件を1つでも満たす場合に、トリガー条件が適用されるようにするには、このオプションを選択します。

ステップ**7** [次 \land (Next)] をクリックします。

- ステップ**8** [トリガーの追加(Add Trigger)] の [ワークフローの指定(Specify Workflow)] 画面で、トリガーで実行 する 1 つ以上のワークフローを選択します。
 - a) [トリガーの状態がアクティブになったとき (When Trigger State Becomes Active)]の[ワークフローの 選択 (Select Workflow)]ドロップダウンリストから、ワークフローを選択します。選択したワークフローは以下のように実行されます。
 - トリガーがステートレスの場合は、([頻度 (Frequency)] ドロップダウンリストで指定された頻度でチェックされて) トリガー状態が [アクティブ (Active)] になるたびにワークフローが実行されます。
 - トリガーがステートフルの場合は、([頻度 (Frequency)] ドロップダウンリストで指定された頻度で)最後にチェックされてから、トリガー状態が[クリア (Clear)] から[アクティブ (Active)] に変わった場合にのみ、ワークフローが実行されます。
 - b) トリガーのタイプをステートレスとして選択した場合、[トリガーの状態がアクティブになったとき (When Trigger State Becomes Active)]の[ワークフローの選択 (Select Workflow)]ドロップダウンリ

ストからワークフローを選択します。このワークフローは、([頻度 (Frequency)] ドロップダウン リストで指定された頻度で)最後にチェックされてから、トリガー状態が [アクティブ (Active)] から [クリア (Clear)] に変わった場合にのみ実行されます。

ステップ**9** [次へ (Next)] をクリックします。

- ステップ **10** [トリガーの追加(Add Trigger)] の [ワークフロー入力の指定(Specify Workflow Inputs)] 画面で、ワークフローに必要なすべての入力と、必要なオプション入力を入力します。
 - (注) ワークフローで必要となるすべての入力を入力する必要があります。トリガーが適用されるワークフローには、ユーザが入力することはできません。

ステップ11 [送信(Submit)]をクリックします。

次の作業

[ポリシー (Policies)]>[オーケストレーション (Orchestration)]>[トリガー (Triggers)]タブの順に選択し、[有効 (Is Enabled)]チェックボックスのオン/オフを切り替えることで、トリガーを有効または無効にすることができます。

例:ワークフローを実行するトリガーの作成

この例では、一連の条件が満たされるとワークフローを実行するためのトリガーを作成する方法 を説明します。

ステップ1 次のように、1つのタスクだけが含まれるワークフローを作成します。

a) 次の表の説明に従って、ワークフローを作成します。

名前	説明
[ワークフロー名(Workflow Name)] テキスト フィールド	VM 電源イベントの通知と入力します。
[説明(Description)] テキスト ボックス	VMの電源状態が変化したときに電子メールを送信と入力します。
[ワークフロー コンテキスト(Workflow Context)] ドロップダウン リスト	[任意 (Any)] を選択します。
[フォルダの選択(Select Folder)] ドロップダウン リスト	[サンプル オーケストレーション(Orchestration Examples)] を選択します。

b) 次の表の説明に従って、入力を作成します。

名前	説明
[入力ラベル(Input Label)] テキスト フィールド	管理 E メールと入力します。
[入力の説明(Input Description)] テキスト ボックス	電源イベント通知の送信先Eメールアドレスと入力します。
[オプション (Optional)] チェックボックス	オフのままにします。
[入力タイプ(Input Type)] ドロップダウン リスト	[email_address_list] を選択します。
[値の制限(Value Restrictions)] 選択項目	[管理入力(Admin Input)] はオンにしないでください。

- c) 任意のユーザ出力を定義します。
- d) [ワークフロー デザイナ(Workflow Designer)] で、[メールの送信(Send Email)] タスクをワークフローに追加します。
- e) 次の表の説明に従って、タスク情報を入力します。

名前	説明	
[タスク情報(Task Information)] ページ		
[タスク名(Task Name)] テキスト フィールド	VMPowerEventEmail と入力します。	
[ユーザ入力マッピング(User Input Mapping)] ページ		
[メール アドレス(必須)(Email Addresses (Mandatory))] 見出し	[ユーザ入力にマッピング(Map to User Input)] チェックボックスをオンにします。	
[タスク入力(Task Input)] ページ		
[件名(Subject)] テキスト フィールド	通知メールの件名です。VM 電源イベントの通知 と入力します。	
[本文(Body)] テキスト ボックス	通知メールの本文です。次のいずれかの VM で電源オンまたは電源オフ イベントがありました: (VMPowerCycle ワークフローに含まれる VM のリスト)と入力します。	
[値の制限(Value Restrictions)] 選択項目	[管理入力 (Admin Input)]はオンにしないでください。	

f) [ユーザ出力マッピング (User Output Mapping)] ページでは、出力をマッピングしないでください。

g) ワークフローを検証してから、[ワークフローデザイナ (Workflow Designer)]を終了します。

ステップ2 [トリガー (Triggers)] タブをクリックします。

ステップ3 [追加 (Add)] アクションをクリックします。

ステップ4 [トリガー情報 (Trigger Information)]ページで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[トリガー名(Trigger Name)] テキスト フィールド	VMPowerEvent と入力します。
[有効(Is Enabled)] チェックボックス	このボックスはオンのままにしてください。
[説明(Description)] テキスト ボックス	モニタ対象の VM で電源オンまたは電源オフ イベントが発生した場合、VMPowerEventEmail を実行と入力します。
[頻度(Frequency)] ドロップダウン リスト	トリガーをテストするために、ポーリング間隔を短くしてください。[3分(3 minutes)]を選択します。
[トリガー タイプ(Trigger Type)] ドロップダウン リスト	[ステートフル (Stateful)]を選択します。これにより、ポーリング間隔中に状態が変化すると、トリガーが起動されます。

ステップ5 [条件を指定します (Specify Conditions)] ページで、いくつかの条件を追加します。

a) [+] アイコンをクリックして、次の表に指定されているように条件を追加します。

名前	説明
[モニタ対象のオブジェクトのタイプ (Type of Object to Monitor)] ドロップダウン リスト	[VM] を選択します。
[オブジェクト(Object)] ドロップダウン リスト	モニタ対象の VM を選択します。
[パラメータ(Parameter)] ドロップダウンリスト	[電源ステータス(Power Status)] を選択します。
[操作(Operation)] ドロップダウン リスト	[等しい(Equals)]を選択します。
[値(Value)] ドロップダウン リスト	[オン (ON)]を選択します。

b) モニタ対象の VM を追加するには、最後のステップを繰り返します。各 VM には、それぞれ独自の条件があります。

- c) [トリガーの適用条件(Trigger When)] ドロップダウン リストで、[いずれかの条件を満たす(Any Condition(s) Satisfied)] を選択します。
- **ステップ6** [ワークフローの指定(Specify Workflow)] ページで、次の表の説明に従って、フィールドに値を入力します。

名前	説明
[最大呼び出し回数(Maximum Invocations)] ドロップダウン リスト	デモの場合は[20]を選択します。実稼働環境のアプリケーションでは、[無制限(Unlimited)]を選択することを推奨します。
[トリガーの状態がアクティブになったとき(When Trigger State Becomes Active)] 見出し	[ワークフローの選択 (Select Workflow)]ドロップ ダウンリストで、[VMPowerEventNotify]を選択します。このトリガーは、[条件を指定します (Specify Conditions)]ページで定義されているように、モニタ対象の VM のいずれかが [オフ (OFF)] から [オン (ON)] に変化するとワークフローを実行します。 (注) ドロップダウンリストには、順番に割り当てられた ID番号順に項目が表示されます。したがって、ワークフローはリストの一番下にあります。
[トリガーの状態がクリアになったとき(When Trigger State Becomes Clear)] 見出し	[ワークフローの選択(Select Workflow)] ドロップ ダウン リストで、[VMPowerEventNotify] を選択し ます。このトリガーは、[条件を指定します(Specify Conditions)] ページで定義されているように、モニ タ対象の VM のいずれかが [オン(ON)] から [オ フ(OFF)] に変化するとワークフローを実行しま す。

次の作業

モニタ対象の VM のオン/オフにして、トリガーをテストします。 VM の状態変更が 3 分以上維持されるようにします。トリガーは状態をポーリングするため、ポーリングの時点で変更が確認されなければ(たとえば、3 分の待機間隔の間にオンにされて再びオフにされた場合)、トリガーは起動されません。

サービス リクエストのスケジュール設定

ワークフローが特定の時刻に実行されるようにスケジュールできます。

ステップ1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)]>[オーケストレーション (Orchestration)]を選択します。

ステップ2 [ワークフロー (Workflows)] タブを選択します。

ステップ3 [ワークフロー (Workflows)]ペインで、スケジュールするワークフローを選択します。

ステップ4 [スケジュール (Schedule)] をクリックします。

ステップ5 [ワークフローのスケジュール設定(Schedule Workflow) 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[繰り返しタイプ(Recurrence Type)] ドロップダウンリスト	ワークフローを繰り返し実行するかどうか、繰り返 し実行する場合はその頻度を設定します。次のいず れかを実行します。
	• [無期限 (No End)]: [頻度のタイプ (Frequency Type)] および [頻度の間隔 (Frequency Interval)] で定義された間隔に従って、[開始時刻 (Start Time)]で設定された時刻から無期限でワークフローが繰り返し実行されます。
	• [1 回のみ(Only onc)]: [開始時刻(Start Time)] に設定された時刻に 1 回だけワークフ ローが実行されます。
	• [固定回数(Fixed Number of Times)]: [頻度の タイプ(Frequency Type)] および [頻度の間隔 (Frequency Interval)] で定義された間隔に従っ て、[開始時刻(Start Time)] で設定された時 刻から [繰り返し回数(Repeat Count)] で指定 された回数までワークフローが実行されます。
	• [繰り返し期限まで(End by Date)]: [頻度の タイプ(Frequency Type)] および [頻度の間隔 (Frequency Interval)] で定義された間隔に従っ て、[開始時刻(Start Time)] で設定された時 刻から定義された期限までワークフローが実 行されます。
[開始時刻(Start Time)] フィールド	ワークフローの実行開始時刻(または一連の繰り返 し実行の最初の実行時刻)。

名前	説明
[頻度のタイプ(Frequency Type)] ドロップダウンリスト	繰り返し頻度の間隔単位。[毎時(hourly)]、[毎日(daily)]、[毎週(weekly)]、または[毎月(monthly)] のいずれかを選択します。
[頻度の間隔(Frequency Interval)] ドロップダウンリスト	選択した頻度に対応して、ワークフローを実行する間隔を選択します。たとえば、[頻度の間隔 (Frequency Interval)]を4に設定し、[頻度のタイプ (Frequency Type)]を毎日に設定すると、ワークフローは4日おきに実行されます。
[ユーザ ID(User ID)] フィールド(任意)	ワークフローを実行するユーザ。

(注) ワークフローに入力を提供する必要があります。スケジュール済みワークフローでは、ユーザ 入力は受け入れられません。

次の作業

スケジュール済みワークフローを確認するには、[ワークフローのスケジュール (Workflow Schedules)] タブを選択します。

ワークフローのスケジュールを変更するには、[ワークフローのスケジュール(Workflow Schedules)] ペインで、ワークフローを選択して[編集(Edit)] ボタンをクリックします。[ワークフロースケジュールの変更(Modify Workflow Schedule)] ダイアログボックスが表示されます。前の手順で説明したフィールドを変更します。[ワークフロースケジュールの変更(Modify Workflow Schedule)] ダイアログボックスは、[ワークフローのスケジュール設定(Schedule Workflow)] ダイアログボックスは、「ワークフローのスケジュール設定(Schedule Workflow)] ダイアログボックスと同じです。

例:ワークフロー実行のスケジュール設定

この例では、ワークフローを後で実行するようにスケジュールする方法を説明しいます。

はじめる前に

例:ワークフローの作成の説明に従ってサンプルワークフローを作成します。

- ステップ1 [ポリシー (Policies)]>[オーケストレーション (Orchestration)]に移動します。
- ステップ2 [ワークフロー (Workflows)] タブをクリックします。
- ステップ3 [VMPowerCycle] ワークフローを選択します。

ステップ4 [スケジュール (Schedule)] アクションをクリックします。

ステップ5 [ワークフローのスケジュール設定(Schedule Workflow)] ダイアログボックスで、次の表の説明に従って、フィールドに値を入力します。

名前	説明
[繰り返しタイプ(Recurrence Type)] ドロップダウンリスト	[1回のみ(Only once)] を選択します。実稼働環境のアプリケーションでは、他の値を選択することを推奨します。
[開始時刻(Start Time)] 日時コントロール	今日の日付を選択し、現在時刻より数分後の時刻を 設定します。
[ユーザ ID(Use ID)] テキスト フィールド	サインインする際に使用した管理者 ID を入力します。

ステップ6 [送信 (Submit)]をクリックします。

次の作業

[ワークフローのスケジュール (Workflow Schedules)] タブをクリックします。スケジュールが設定されたワークフローがリストされます。

[開始時刻 (Start Time)]コントロールで指定した時刻にサービスリクエストキューをオンにします。サービスリクエストの表示を参照してください。指定したワークフローのサービスリクエストが生成されます。

VM アクション ポリシーの使用

仮想データセンター (VDC) に適用するユーザVMアクションポリシーを作成できます。このポリシーには、VDC 内のVM上で実行できるワークフローを含めます。



(注) VDC ごとに割り当てることができる VM アクション ポリシーは 1 つのみです。

新しい VM アクション ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

- ステップ1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)]>[オーケストレーション (Orchestration)]を選択します。
- ステップ2 [ユーザの VM アクションポリシー (User VM Action Policy)] タブを選択します。
- ステップ**3** [追加(Add)]をクリックします。
- ステップ4 [ポリシーの追加(Add Policy)]の[新しいポリシーの作成(Create New Policy)]画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポリシー名(Policy Name)] フィールド	ポリシー名。
[ポリシーの説明(Policy Description)] フィールド	ポリシーの説明。
[アクションの数を選択(Select No of Actions)] ドロップダウン リスト	ポリシーで定義するアクション数。1つのアクションが単一のワークフローを指定します。

- ステップ5 [次へ (Next)] をクリックします。
- **ステップ6** [ポリシーの追加(Add Policy)] の [VM アクションの追加(Add VM Actions)] 画面で、各 [VM アクション (VM Action)] の次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[アクションラベル(Action Label)] フィールド	VMアクションのラベル。アクションポリシーを適用する仮想データセンター(VDC)に属する VMを選択すると、アクションが有効になります。
[ワークフロー(Workflow)] ドロップダウン リスト	このアクションによって表されるワークフロー。
[認定ユーザタイプ(Authorized User Types)] ドロップダウン リスト	ポリシーのワークフローを実行する権限を持つユーザタイプ。

ステップ**7** [送信(Submit)]をクリックします。

次の作業

管理者としてユーザVMアクションポリシーを作成した後は、VDCを作成する際にこのポリシーを選択できるようになります。VDCに属するすべてのVMが、アクションポリシーで指定されているワークフローを使用できます。